KSK まちの中で

第19号

発行日　2000年11月18日
編集人　横浜市グループホーム連絡会
横浜市中区本牧満坂10本牧生活の家内
TEL 045(623)5318　FAX 045(623)5319

昭和51年12月22日第3種郵便物許可
KSK増刊通巻2649(毎月12回2・3・4・5の付(日発行)

ああ ホームヘルパー

横浜市グループホーム連絡会
会長　室津滋樹

「今日はヘルパーさんが来るから、午後から家へ帰る。」作業所に通所している一人暮らしの障害者のごくごく普通の会話です。一人暮らしを支えるホームヘルパーの制度は、利用者にとっては、非常に多くの制約があります。たとえば、夜間にしかできない夕食の片づけなどを除くと、家事援助は基本的には昼間の時間帯にやることになっています。ところが就労している障害者や、作業所等に通所している障害者は、昼間の時間帯は自宅にはいません。そこで、ヘルパーさんに家事を手伝ってもらうために、作業所を午後は休むことになるのです。

利用者の都合の良い時間帯にヘルパーが派遣されるのではなく、ヘルパーの派遣時間にあわせて、利用者が生活を変えなければならないのです。利用者の生活より、ヘルパーを派遣する側の都合が優先されているのが現実です。

介護保険がスタートし、障害者も「措置から利用契約へ」という流れの中で、これらの事態は変わっていくはずでした。利用する側がサービスを選び、サービス間で競争が働き、サービスの質が向上するはずだからです。いろいろなサービス提供事業者があって、その中から選べるようになれば、家事は昼間だけしかできないような事業者からのサービスを受けなければいいのです。選択と競争、これが現在の改革の基本のはずです。

ところが、厚生省は介護保険の家事援助の範囲を明確にするための「不適正事例」をまとめたのだそうです。新聞報道によると草むしりや花木の水やり、犬の散歩、窓ガラスふき、床のワックスがけ、家族の分の洗濯や調理などが不適正なのだそうです。

介護保険でやるべきでないというなら、誰がやるのでしょうか。一人で暮らす障害者や高齢者は、ペットも飼えず、草花も育てられないような生活を送らなければならないのでしょうか。窓ガラスも拭かず、大掃除もせずに暮らしていかなければならないのでしょうか。介護保険は、いくらでもサービスを使えるのではなく、要介護認定によりサービスの上限が決められており、限られた時間をやりくりして（やってほしいことを何か我慢して）、犬の散歩や花木の水やりを頼んでいるのです。このような選択も不適正なのでしょうか。

国や自治体が規制を設け、内容を制限するという従来通りのやり方が続いていいのでしょうか。利用者の選択と事業者間の競争はどこへ行ってしまったのでしょうか。利用者はサービスにあわせて生活を変え続けなければならないのでしょうか。

いつでも、そしていつまでも！

横浜にA型グループホームができて十六年になります。入居者も家族もそれだけ年をとり、一年を通してグループホームで暮らす人の数も増えています。介護保険を受けられる年齢に達している入居者も十数名います。最近の連絡会の調べでは四十五歳以上の入居者は二割を越えます。

三六五日暮らせるように！

グループホーム連絡会では、横浜市に「すべてのグループホームで入居者が三六五日暮らせるように制度を充実させてほしい」と長年にわたって要望しています。

三六五日ホームをオープンするためにはどのホームも職員は最低二人は必要であること。そのためには入居者数によって変動しない基本部分に入居者の数や障害の程度によって変動する上乗せ部分を積み上げていく補助方式を取り入れる必要があることを訴えてきました。

また入居者の状況によって、援助者の泊まりの必要性や週末運営の必要性は違ってくるので、実態に合わせて補助額を加算できるしくみにしてほしいと横浜市にお願いしてきました。

高秀市長にお会いして

一九九九年六月八日、私たちは高秀市長と障害者の地域での暮らしについて直接お話しできる機会を持つことができました。

入居者、家族、運営者、職員と、あわせて十五名、それぞれの立場から市長さんとお話しできて本当によかったと思います。

ハーモニーの入居者の原田未来さんが一人暮らしをしたいことを、きゃんばすの深沢博子さんは介助者が足りないことやホームでこれからも暮らしたいことを、ほほえみの鈴木陽子さんはホームでの生活の様子を、四季の鈴木啓示さんは施設ではなくグループホームでの暮らしを選んだ時の気持ちをそれぞれに話しました。

会議室ではなしあい

一生暮らせる道筋を

ハイツきさらぎに弟さんが入居している青木さんは、兄弟の立場から「母親が亡くなって弟の生活が行き詰まってしまったときにグループホームに入居できることになって本当に救われた」と、当時の気持ちを話されました。

きゃんばすの深沢さんのお父さんは「本人はグループホームでずっと生活したいといっている。まずは三六五日ホームで暮らすこと、さらには娘を最後まで見ていただける方法がないだろうかと考えている。親亡き後ではなくて、親が生きているうちにその道筋を確かめたい」とその思いを話されました。

市長さんはふるさと北海道の炭鉱住宅を利用したグループホームのはなしをされながら、親亡き後の障害者の生活にも深い関心を示されました。

障害者高齢化対策　施策の検討へ

「横浜市の障害者が親亡き後困らないようにしたい」との市長さんの強い意向を反映して、横浜市

はこの後、知的障害者高齢化対応施策検討委員会を設置し、高齢化していく障害者が地域の中で生活を続けるためのさまざまな施策についての検討を行なっています。

このような経過のもとに、横浜市は今年度、グループホーム制度の大きな変革に踏み切りました。この変革は賛否両論、非常に大きな議論を巻き起こしました。制度のしくみとしてはより実態に即した方式になったのですが、運営費の額が不充分だったため、減額になるところが出てしまったのです。

小規模ホームに手厚く

新たなグループホーム制度の内容は、入居者数六人のホームより四人のホームの方が一人あたりの運営費が手厚いというものです。これは連絡会が「小規模なホーム運営が成り立つように道を開いてほしい」と要望し続けてきたことに応えたものであると思います。この内容は大きな意味をもっています。横浜市が「小規模であることの大切さ」をきちんと認識し、具体的な形にあらわしたものとして高く評価しています。

夜間、週末の援助体制にあわせて

さらに夜間、泊まりの援助者を必要とするホームや週末も運営をおこなっているホームにより手厚くなるような補助方式になりました。すでにあった介助加算とあわせて、それぞれのホームの入居者数、障害の程度、夜間の援助体制週末の援助体制に合わせて補助金を積み上げていく補助方式になったのです。

制度の内容としては長年の懸案だった制度の根本的な部分を改善したものとして評価しています。

ただし本当に残念なことですが、今年度の変革には金額が伴わず、六人のホームについては昨年度より減額となってしまったのです。運営面では厳しい結果をもたらしました。もともとぎりぎりのところで四苦八苦の運営をしているグループホームにとってこれは大変な事態です。

一方、入居者四人のホームにとっては新しい制度になって少しほっとしたところではないかと思いますが、まだ障害の軽い人が多い四人のホームでは職員を二人雇うだけの状況には至らず、実際の運営にはまだまだ厳しいものがあります。

週末もいられるホームへ

新しい制度になって、七ケ月が過ぎました。これまで補助額の問題から週末は実家に帰るという方法をとっていた多くのホームが、入居者の希望を受け入れる形で週末の運営に向けての取り組みをはじめています。まだまだ不充分な点はありますが、制度が変わったことで入居者のニーズに応える方向に進んでいることは評価すべきだと思います。

年をとっても地域の中で

社会福祉のしくみが大きく変わるといわれています。先がどうなるのかがわかりにくい時期ですが、このような時期だからこそ、障害者の生活を支える基本的なしくみを充実することが重要だと思います。横浜市には次年度に向けて減額になった運営費を回復するとともに、年をとっても地域の中で暮らし続けることができる、そんな時代を担っていってほしいと思っています。

庭で歓談

新しい仲間ですよろしくネ!!

大道ホーム自己紹介

大道ホームが開所してから、あっという間に1年が経とうとしています。
この頃はメンバー、職員共に余裕が出てきて皆でリビングで、寛ぐということはもちろんのこと、自分の部屋での時間の過しかたがとても上手くなり、部屋で食事を摂ったりする人、休日には昼寝をする人等や、女性メンバー等はとてもお洒落になり職員と一緒に服を買いに行ったりアクセサリーを身に付けたり、趣味のピアノを楽しんだりしている人等もいます。

グループホーム ポマト

私たちは都筑区のグループホームに住んでいます。
今年の3月に引越して来ました。
新しいポマトは広くて、きれいで快適です。
家族が離れて来たけど、みんなでくらして1年3ヶ月、もうだいぶ慣れました。
みなさん、よろしくお願いします。

グループホーム 太陽

ホームの名前はみんなで話し合って「太陽」に決めました。
明るいイメージなので気に入っています。
「太陽」の前には、新幹線が走っています。
新幹線の速さによって揺れが変わります。
最初はびっくりしたけど、今は慣れました。

グループホーム「うらら舎」

春、3月から暮らしはじめました。
ゆっくり、ゆっくりと歩き始めたばかりです
どうぞよろしくおねがいします。

加藤要子 よしばりの仕事を一生懸命にやっています。

畑中武史 クリーニング屋の仕事をしています。

樋口英二 富士電機川崎工場に行っております。

佐々木裕子 かいしゃみつのり はたらき
さがりのおろす会社三徳で働いてます
好きなタレントは中沢裕子さんです

川島久美子 好きなタレントは、スナップやキンキとかジュニアせいが好きです。

みどりがおか

間壁十重 才30さい
すきなものはユンスープとユグロです。

鈴木賢二 26さい
すきなものはおかけとおかずとおとうさんです。

金沢聡 おんがくはリチャードクレイダーマンをきいています。おさんぽもすきです。

田辺さん 佐藤君 千野さん 朝生さん 友愛金沢は、とても楽しいグループホームです。 梅田さん

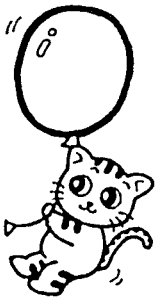
ハイツマモル

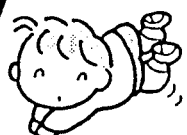
ニ世帯住宅になっていて一棟には熱帯カップルの尾崎美重が伸良く生活されています
隣の棟には今年成人式を迎えた長栄さん、イベント楽めて県外へも出掛けていく庄司さん、結婚を夢見る高梨さんが楽しく暮らしています。

よろしく!!

グループホーム アポロ

私達のグループホームは磯子区の岡村という住宅街の中にあります。
入居者は男性5人、女性1人の計6人です。
女性が1人しかいないので少し淋しい気もしますが、お互いに気を遣う場面も多少あります。しかしながら、みんな仲良く暮らしています。





グループホーム恩田

1999.10.スタートです。

皆、グループホーム生活をenjoyしてます。
作業所わかばに行ってます。

好きなこと
星さん　本を読むこと、映画をみることが大好きです。
岩代さん　スクエアダンス・カラオケ、巨人軍の大ファンです。
柏熊さん　プールにはいるのが大好きです。温泉も好き。
岩井さん　詩をかくこと、旅行、国内国外を問わず行きます。

グループホーム アガペ

かわむら さくぞうさん　はずかしくて書けないそうです
うつみ まりさん　私は、さくぞうさんが大すきです。
うめもと ひであきさん　バクチがすきです。えっいのかな?
えのもと まさ子　さんぽとたべること、だそうです。
きむら やえさん　あっいのがニガテだそうです。
よう みっこさん　さんぽがすきです。

第9回 総会

会場いっぱい 仲間の顔

七月一日（土）あゆみ荘において総会が開かれました。年々増え続けるグループホーム、会場も出席者でいっぱい。大盛会でした。

毎年10カ所をこえるA型グループホームの誕生で、組織が大きくなりました。市内を4つのブロックに分け、ホーム間の交流や意見交換をやりやすくしました。

また会の運営をスムーズに行なうために、事務局体制の強化と連絡会の充実をはかります。

入居者部会

総会当日、入居者部会長の選挙が行なわれ、自薦他薦の候補者に各グループホーム代表が投票した結果、新しい役員が決まりました。

会　長　永田　孝（さくらの家）
副会長　牧　正一（来夢）
　　三谷浩之（ふれあい生活の家）
行事担当　千野　広（ゆうあい金沢）
　　坂野淳一（イルカ）

会長を中心に副会長、行事担当が協力して、部会活動がより活発になることと思います。

入居者部会長になって

さくらの家　永田　孝

選挙の時はどきどきしました。目をつぶってました。13票も入ってあんなに入るとは思わなかった。うれしいです。

入居者部会で役員の人のやることを決めました。以前より活発な意見が出ます。二年間楽しくやりたい。会長としてやりたいことは市長さんに会いたい。

会ってグループホームの様子を話したり、要望をしたい。

職員部会の役割

職員部会長　岡部　千枝

職員部会の大事な役割は、職員がひとりで悩むことがないように情報交換と交流を行なうことです。

グループホームにはひとりないしふたりの職員しかいませんし、ふたりのところでも交替で泊っていると、すれちがうことになります。職員は日々の仕事をひとりで引き受けなければならず、悩みをためこんでしまいがちです。かと言って、一晩中ホームに泊りこむという特殊な仕事なので、一般の仕事の友人達にはなかなか理解してもらえなかったりします。そんな職員が、仕事に行きづまってしまうことがないように職員部会はあります。

ひとりで仕事をしていると、ひとりよがりになりやすく、まちがいに気づきにくくなります。そういう意味でも他のホームの方々と知りあい、話をすることで今まで見えていなかったものが見えるようになったり、良い刺激を受けることができます。

私自身以前おじゃましたホームで、ふたりいる職員のうちひとりは忙しく動きまわっているのに、もうひとりは入居者の方とおしゃべりをしていてとても不思議に思い聞いてみると「ふたりとも忙しそうにしていると、入居者の方が頼みたい事も我慢してしまう、だからわざとひまな『役』をつくるようにしている」との返事。これにはカルチャーショックを受け、以来入居者さんの前では「忙しくてもひまそうに」をモットーに仕事をしています。

部会の活動は年数回の交流会と会誌「かいらんばん」の発行です。これを利用して他のホーム職員と意見交換したりして、職員の仕事がより有意義なものになるように願っています。

協力会員募集！

まちの中でくらしている障害者の姿や声をお届けする機関紙「まちの中で」を発行しつづけるためにご支援をお願いいたします。

会費（年）1口 2000円

振替…00280-7-73608
横浜市グループホーム連絡会

☆協力会員になっていただいた方には機関紙をお送りいたします。

基金づくりにご協力を！

グループホーム運営支援基金のためにみなさまのお手元でねむっている未使用のテレフォンカード，オレンジカード，ビール券，商品券などのご寄付をお願いします。

送り先・横浜市グループホーム連絡会
事務局
〒231-0833 横浜市中区本牧満坂10
本牧生活の家 045-623-5318

新年度の協力会費振り込みお願いいたします

― ありがとうございました ―

（1999.6.1～2000.7.31）
敬称略

寄付

近藤博子　沖山雪子　佐藤由身子

テレカ・商品券他

西山房子　桑原玲子　田中栄子　室津滋樹　近藤博子
早川康弐，美佐　大津京子　長栄律子　あゆみ荘

協力会員

飛田利美子　鈴木　伸　喜多田和子　福田瑶子　鈴木恭子
植田慶子　加藤恵美子　岩崎和子　南部トシ子　本多敬子
藤尾孝枝　森下博子　早川康弐，美佐　加藤ヨシ子
南　馨　辻田平七　沖山雪子　佐藤由身子　永沢利子
小川千代　荒川綾子　木戸　毅
椎木　章　志渡智子　西田幸子
内山米子　青井富三子　末田耕司
愛敬千佳子　志村重子　原田南海子

編集後記

長い間お休みをただき、協力会員の皆様にはたいへんご迷惑をおかけしました。これからも応援お願いいたします。

発行人　神奈川県身体障害者団体定期刊行物協会
横浜市港北区鳥山町1752
横浜ラポール3F
編集人　横浜市グループホーム連絡会
横浜市中区本牧満坂10 本牧生活の家
TEL 045(623)5318
FAX 045(623)5319
郵便振込番号 00280-7-87608
名称　横浜市グループホーム連絡会
編集責任者　室津　滋樹
定価　100円